

# 平成30年第5回庄原市議会定例会

## 一般質問通告者 及び 質問事項

12月13日～12月17日

### 質問順位

- |     |      |     |       |
|-----|------|-----|-------|
| 1.  | 山田聖三 | 2.  | 横路政之  |
| 3.  | 赤木忠徳 | 4.  | 岩山泰憲  |
| 5.  | 坂本義明 | 6.  | 吉方明美  |
| 7.  | 徳永泰臣 | 8.  | 宇江田豊彦 |
| 9.  | 福山権二 | 10. | 近藤久子  |
| 11. | 政野太  | 12. | 五島誠   |
| 13. | 谷口隆明 |     |       |

庄原市議会

# 平成30年12月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	山田聖三	人口減少対策における林業後継者の育成・確保について	1
		読書のまちづくりに向けた読書環境の充実について	2
2	横路政之	生活困窮者自立支援法の改正に伴う今後の取り組みについて	3
		児童生徒の携行品に係る配慮について	4
		小中学校へのエアコン設置について	5
3	赤木忠徳	市民が主役のまちづくりを目指して	6
4	岩山泰憲	学校適正規模・適正配置基本計画について	7
		市内各地域の均衡ある発展について	8
		農業生産組織の育成による地域振興について	8
		有害鳥獣対策について	8
5	坂本義明	日本酒（地酒）で乾杯条例の制定について	9
		若者定住のための市営住宅建設について	9
		高野斎場の現状と今後の位置付けについて	9
6	吉方明美	高齢者や在宅介護者に優しい避難所の環境整備について	10
		外国人に配慮したゴミの搬出方法の周知について	11
7	徳永泰臣	風疹患者拡大への本市の対応について	13
		温水プール水夢の活用について	14
8	宇江田豊彦	安心して働ける職員管理について	15
		小中学校における教職員の勤務実態について	16
9	福山権二	災害対策について	17
		市民の声を尊重する市政運営について	17
10	近藤久子	幼児教育における環境づくりについて	18
11	政野太	庄原市の人口問題について	20
		県立広島大学との連携について	20
		比婆道後帝釈国定公園の災害復旧について	21
12	五島誠	中学生のまちづくりへの参画について	22
		カラーユニバーサルデザイン推進の取り組みについて	22
		副業人材の活用について	22
13	谷口隆明	水道事業の広域化について	23
		高すぎる国民健康保険税を引き下げ、住民と保険制度を守るために	23
		学校再配置計画の再考を	24
		帝釈峡の環境整備について	24

## 一般質問日程

12月13日（木）山田聖三・横路政之・赤木忠徳・岩山泰憲・坂本義明

12月14日（金）吉方明美・徳永泰臣・宇江田豊彦・福山権二

12月17日（月）近藤久子・政野 太・五島誠・谷口隆明

順位	1	質問者	山田 聖三	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 人口減少対策における林業後継者の育成・確保について	<p>人口減少社会における問題は、次の時代を担う後継者をどう育てていくかであると考えられる。林業分野において、どのような施策で後継者の育成・確保をしようとしているのか、市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 林業後継者の育成・確保への取り組みの現状及び課題について伺う。</p> <p>(2) 林業への就業前の青年に対する給付金や新規就業者の育成研修に取り組む林業事業体等を支援するといった国の事業があるが、本市における活用状況について伺う。</p> <p>(3) 本市には、単独市費事業の新規就農者育成事業奨励金があるが、林業の新規就業者にも支給できるよう支給要件の拡大をしてはどうかと考えるが、所見を伺う。</p> <p>(4) 自伐型林家の育成を含めて、林業後継者の育成・確保への今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(5) 林業と農業は密接な関係があり、統一した施策等の推進が必要である。そのためには、同一部署での行政執行が有効であると考えられるが、所見を伺う。</p>		市長	

順位	1	質問者	山田 聖三
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 読書のまちづくりに向けた読書環境の充実について	<p>読書のまちづくりに向けて、本市の教育振興基本計画の中にも読書環境の充実が掲げられており、図書館運営や図書館サービスの充実が重要となるが、次のとおり教育長の考えを伺う。</p> <p>(1) 図書館機能の充実の中で、利用者の問い合わせに応じて図書などの紹介や検索を行う、いわゆるレファレンス業務があるが、本市のレファレンス業務の状況及び課題について伺う。</p> <p>(2) 高齢者や障害者、乳幼児など配慮を必要とする人が、積極的に市立図書館を利用することができる施設や設備になっているか、現状と課題について伺う。</p> <p>(3) 公共施設の待合室等に絵本を置いたり、人の集まる場所に出張したりするといった移動図書館の設置について、所見を伺う。</p> <p>(4) 読書のまちづくりの推進に向けて、読書環境の充実をどのように進めていくのか、今後の取り組みについて伺う。</p>		教育長

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 生活困窮者自立支援法の改正に伴う今後の取り組みについて	<p>生活保護に至る前の困窮者を支援するための「生活困窮者自立支援法」が改正され、10月から一部を除き施行された。</p> <p>困窮者に寄り添う姿勢を、より明確化するとともに、就労や家計改善に関する支援も充実が図られている。改正の概要は、基本理念の規定を創設、生活困窮者の定義規定の見直し、一時生活支援事業の拡充、子どもの学習支援に生活支援を追加、利用勧奨の実施、支援会議の設置である。こうした規定が設けられたのは、困窮者を支援制度に着実につなげるには、制度で定めている支援事業以外の行政の部局を含む幅広い関係者の協力が必要であり、効果的に支援するためにも理念などの共有が求められるからである。</p> <p>(1) この改正による現制度への影響はどのようなものがあるのか伺う。</p> <p>(2) 具体策として、一つは自治体の福祉、就労などの各部局が困窮者を把握した場合に、支援制度を利用するよう勧める努力義務の創設、二つ目は福祉や教育を含む関係機関が困窮者の情報を共有する「支援会議」の法定化について定められているが、本市としての今後の取り組みを伺う。</p>		市長	

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 児童生徒の携行品に係る配慮について	<p>今、子どもたちが学校へ持っていくランドセルやカバンの重さが問題になっている。教科書協会刊行の2017年データによれば、主要教科のページ数は学習指導要領の改定などにより、10年間で約35%増加している。ランドセル本体やノート、文具などの重さを合わせると、小学1年生でも平均3キロから4キロを毎日背負うことになる。文部科学省は本年9月6日、全国の教育委員会などに対し、児童生徒の携行品の重量などに配慮するよう求める通知を出している。</p> <p>そこで、児童生徒が宿題等で自宅の学習に使う以外の教材については、学校に置くことができるように、市内一律で学校に置いて帰ってよいものを統一すべきと考えるが、教育長の見解を伺う。</p>		教育長	

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
3. 小中学校への エアコン設置 について	<p>11月7日に成立した政府の2018年度補正予算では、熱中症防止に向けて、全国の公立小中学校などの普通教室全てにエアコンを設置する費用として822億円が計上された。</p> <p>政府は公立小中学校の普通教室38万室のうち、未設置の約17万室に来年夏までに整備することを想定している。</p> <p>また、体育館や特別教室への設置に補正予算を充てることは排除しておらず、執行状況や自治体の要望を踏まえて対応するとしている。</p> <p>(1) 本市の小中学校へのエアコン設置状況はどうなっているのか伺う。</p> <hr/> <p>(2) 特別教室、体育館へのエアコン設置補助についても、積極的に国に対して要望をしていくべきと考えるが、教育長の見解を伺う。</p>		教育長	

順位	3	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 市民が主役のまちづくりを目指して	<p>平成26年7月に庄原市斎場再編整備計画が策定され、平成29年9月に改定されたが、市民が主役のまちづくりの観点から、その経緯と要望書の取り扱いについて、次のとおり伺う。</p> <p>(1) 本市のまちづくりにおける最高規範である「庄原市まちづくり基本条例」の趣旨に則って審議を進めて来られたのか伺う。</p> <p>(2) 庄原市斎場再編整備検討委員会設置要綱が平成24年8月31日に制定されてから、現在までの取り組みの経過について伺う。</p> <p>(3) 今回、西城自治振興区連絡協議会から提出された署名付きの要望書を、どの様に取り扱うのか伺う。</p>		市長



順位	4	質問者	岩山 泰憲	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 学校適正規 模・適正配置基 本計画につい て	<p>現在、本市において、小中学校の統廃合を進めようとしているが、文部科学省の手引においては、「保護者や地域住民と共通理解を図りながら学校統合の適否を考える必要がある」、「地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた丁寧な議論が望まれる」などと示されていることを踏まえ、次のとおり伺う。</p> <p>(1) 本市の場合、住民に対する詳細な説明をする前に、教育委員会で検討委員会を立ち上げ、先に方針を決定した後で地域に説明していることが問題ではないかと考えるが、教育長の見解を伺う。</p> <p>(2) 教育委員会は、小規模校では教育に支障があるように説明されているが、実際に小規模校の児童の学力が他校と比較して低い実態があるのか伺う。</p> <p>(3) これまで各地域に出向いて行われた説明会において、地域単位でそれぞれどのような意見が出ているのか伺う。</p> <p>(4) 全国的にも中山間地域では児童生徒の減少が見られるが、他の市町では、それを解消する取り組みとして、総力を挙げて小中一貫校や中高一貫校などの魅力ある学校づくりを進めている。本市においても思い切った教育推進体制を築いていく必要があると思うが、教育長の考えを伺う</p>		教育長	

順位	4	質問者	岩山 泰憲
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 市内各地域の 均衡ある発展 について	旧市町の合併時に、それぞれの希望を持って地域振興計画を持ち寄り、新市建設計画を作成し取り組みを進めてきたが、既に10年以上が経過した。現在、同計画により旧市町単位で進めている主な事業の進捗状況について伺う。		市長
3. 農業生産組織 の育成による 地域振興につ いて	市内において耕作放棄地が増えてきている現状があるため、農業集団、農業法人等の農業生産組織の育成、支援を行うことにより、農地を守り集落を維持発展させていくことが重要と考えるが、市長の考えを伺う。		市長
4. 有害鳥獣対策 について	<p>国県からの交付金で資材を購入し提供する制度を活用して、地域や集落の合意により防護柵を設置しているが、支柱の間隔が1メートルとされているため、イノシシがその間から出入りする実態がある。</p> <p>この事業を補完し、当初の目的を達成するための市独自の支援策として、支柱の追加支給や地理的条件等により、この事業が該当しない個人の農地に対する助成を行うことについて、市長の考えを伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	坂本 義明	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 日本酒(地酒) で乾杯条例の 制定について	地場産業の活性化のため、庄原市でも「日本酒(地酒)で乾杯条例」を制定すべきと考えるが、市長の見解を伺う。		市長			
2. 若者定住のた めの市営住宅 建設について	市内中心部への若者の集中を緩和する方策として、IターンやUターン希望者を受け入れるための若者定住住宅を市営住宅が不足している旧町地域へ建設することができないか、市長の見解を伺う。		市長			
3. 高野斎場の現 状と今後の位 置付けについ て	(1) 最近、設備の事故(故障)があり、利用者に迷惑をかけていると聞いているが、現状はどのようになっているのか伺う。		市長			
	(2) 施設の管理・保守について、指定管理者に責任があるのか、設置者である市に責任があるのか伺う。					
	(3) 斎場再編整備計画の3カ所の拠点の一つとして高野斎場があり、待合室の拡充を予算化されているが、現地で確認をしたところ、拡充は難しいと考える。式場を備えた待合場所を他の場所に設置するなど、計画の変更について考えられないか伺う。					

順位	6	質問者	吉方 明美
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 高齢者や在宅 要介護者に優 しい避難所の 環境整備につ いて	<p>本年7月の豪雨災害における避難所の課題をもとに、高齢者や在宅要介護者に対してより優しい避難所とするよう環境整備が求められる。避難指示が出された場合、在宅介護を受けておられる方を想定した避難所になっているのか検証してみる必要がある。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 本市の在宅要介護者の人数と本年7月の豪雨災害の際、その方たちはどのような方法で避難されたのか。</p> <hr/> <p>(2) 避難できなかった在宅要介護者はいなかったのか。おられた場合は、どのように過ごされたのか。</p> <hr/> <p>(3) 避難所には、高齢者や在宅要介護者でも使えるポータブルトイレはあったのか。</p> <p>また、ポータブルトイレを使用する方や紙おむつを必要とする方のプライバシーが守られる環境はあったのか。</p> <hr/> <p>(4) 高齢者や在宅要介護者が休むためのベッドやこれに代わるマット等があったのか。</p> <hr/> <p>(5) 高齢者や在宅要介護者に限り、避難場所として利用できるよう、市内の病院、宿泊施設との提携はできないのか。</p>		市長

順位	6	質問者	吉方 明美	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
<p>2. 外国人に配慮したゴミの搬出方法の周知について</p>	<p>国では、今国会において出入国管理・難民認定法（入管難民法）改正案が可決成立予定である。内容については、いろいろ議論があるところではあるが、来年4月1日に施行される予定である。本市内でも外国人労働者が相当数雇用されているようであるが、その方たちの生活環境の整備も市の責務と考える。</p> <p>日常生活をする上において、言葉の壁や母国と日本との生活習慣の違いもあり、そのひとつにゴミの分別方法がある。私たちと共に本市に住み、生活する外国人にゴミの搬出方法を周知し、ゴミ問題を解決することは本市にとっても重要課題であり、外国人にとっても、本市で生活していく上で大きな安心につながると思う。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 現在、本市で生活されている外国人の人数と過去5年間の人数の推移はどうか。</p> <hr/> <p>(2) 本市では、外国人へ対して、どのようにゴミの搬出について説明しているのか。</p> <hr/> <p>(3) 事業主は、雇用している外国人労働者に対して、ゴミの搬出について、どのような指導をし対策を講じているのか。</p>			<p>市長</p>

順位	6	質問者	吉方 明美	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 外国人に配慮したゴミの搬出方法の周知について	<p>(4) 外国人も地域に設置しているゴミ収集場所を利用できるのか。</p> <p>(5) 外国人の多くは、言葉の壁があるため、日本語表記のゴミの分別表では理解し難いと聞いている。外国人のための国別言語分別表、または手引きが必要ではないかと考えるが、所見を伺う。</p>		市長	

順位	7	質問者	徳永 泰臣	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 風疹患者拡大への本市の対応について	<p data-bbox="523 472 1182 741">現在、首都圏を中心に流行している風疹の今年に入ってからの患者数が 2,000 人を超えた。これは全国で流行した 2013 年～2014 年以来で、直近一週間の患者数も 10 週連続で 100 人を超え感染が広がっている。</p> <p data-bbox="523 763 1182 976">風疹はウイルス性の感染症で、くしゃみやせき等で感染し、妊婦がかかると赤ちゃんに難聴や心臓病などの障害が起きる恐れがあるが、妊婦はワクチンを接種できない。</p> <p data-bbox="523 999 1182 1211">厚生労働省は妊娠を望む女性や妊婦と同居する家族に抗体検査やワクチン接種を呼びかけているが、本市の現状と今後の対応方針について伺う。</p> <p data-bbox="544 1234 1182 1447">(1) 国立感染症研究所は、これまで全国の患者数は 2,000 人以上と発表し、広島県の患者数も 20 人以上となり、感染が広がっているが、本市の現状について伺う。</p> <p data-bbox="544 1469 1182 1794">(2) 過去の国のワクチン制度の在り方が影響し、30 代～50 代の男性に免疫がない人が多く、この年齢層だけで 500 万人以上いるといわれる。この年代に抗体検査・ワクチン接種をしない限り、流行を防げないと思うが、見解を伺う。</p>			市長

順位	7	質問者	徳永 泰臣	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 風疹患者拡大 への本市の対 応について	(3) 現在、妊娠を希望する女性と妊婦の同居家族を対象として免疫の有無を確認するための抗体検査を無料で行う事業を多くの自治体で行っているが、本市の現状を伺う。	(4) 風疹ワクチン及びはしか風疹混合ワクチン(MRワクチン)が不足していると聞 くが、現状について伺う。	(5) 妊娠出産年齢の女性が非妊娠期に2回 のワクチンを完了出来るように、予防接種 施策を整えることが重要と考えるが、今後 の本市の方針について伺う。	市長		
2. 温水プール水 夢の活用につ いて	温水プール水夢は、町民プールとして平成 10年にオープンし、合併後も多くの市民に利 用されている。開館当初は、通年利用で、特 に冬期間の市民の運動不足の解消と健康づく りを目的に施設設置されたものと思うが、合 併後、財政面から管理経費の削減を迫られ、 平成19年度以降、11月から1月までの3カ月 間はプールの使用を休止している。しかし、 3カ月間の休止を始めて10年以上が経過し、 社会情勢も変化してきている中で、次のとお り伺う。	(1) 現在の利用状況について再度伺う。	(2) アンケート調査を行ったが、これによ って把握された課題について伺う。	(3) 今後の活用方針について伺う。	教育長	



順位	8	質問者	宇江田 豊彦	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 安心して働ける職員管理について	<p>職員が安心して働き、持っている力量を十分に発揮できるように職員の福利厚生事業にも取り組まれていることと思う。しかし、現状とすれば多くの課題があり、早急な手立てが必要とも考えるが、以下、具体的問題について市長に伺う。</p> <p>(1) 職員定数が減る中、多様な行政課題・市民ニーズに応えるため、職員の多忙化が進み、病気による休職や社会的な風潮ともいえる中途退職などが出るような実態はないのか、また欠員が生じた場合の対処はどのようにしているのか伺う。</p> <p>(2) 本年7月発生の大雨による大災害の対策では、復旧に向けて一般会計だけでも55億7,650万円余りの補正予算対応し、全力を傾注した取り組みとなっている。職員は日常の業務に追われながらも災害復旧の業務にも携わるような実態になり、過重な状況になっていると思うが、市長の認識を伺う。また技師等の不足も深刻と聞くが、今後の対策をどのようにお考えか伺う。</p> <p>(3) さまざまな課題解決のため、職員の多忙化は進んでいると思うが、事務事業の削減についてはどのようにお考えか市長の所見を伺う。</p>	市長				

順位	8	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 安心して働ける職員管理について	(4) 今日のような状況においても「庄原市定員マネジメントプラン」において、設定した目標数をめざした取り組みを続けるのか、市長の見解を伺う。		市長
2. 小中学校における教職員の勤務実態について	<p>教育条件整備の中で最も大切な教職員の過剰な勤務実態の改善に向けて、本市教育委員会としても長年に渡り取り組みをされてきたと思うが、今日においても深刻な状況は続いており、抜本的な対策が必要との認識である。</p> <p>これまでの取り組みによって、実態は改善されているのか、以下、具体的に伺う。</p> <p>(1) 市内小中学校の教職員の時間外勤務の現状について伺う。また、現状把握方法は、どのようにされているのか。</p> <p>(2) 休日の勤務は、かなり深刻と見受けられるが、実態はどのようになっているのか伺う。</p> <p>(3) 家庭へ持ち帰って業務をこなさなければならない状況はあるのか伺う。</p> <p>(4) 教職員の時間外勤務が生起する原因について、どのような分析をされているのか。また、解決へ向けての対策は、どのようにされるのか伺う。</p> <p>(5) 教職員一人ひとりの1カ月当たりの時間外勤務上限時間の目標を立てる必要性について、認識を伺う。</p>		教育長

順位	9	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 災害対策について	<p>市は、本年7月豪雨被災に対する災害復旧事業を献身的に実施しているが、災害復旧事業は会計年度内に補助率を決定して予算措置が行われるため、災害年に査定を終了し関連工事は災害年を含め3年以内に終了させることが原則となっている。この事業を実施するには、土木業者や工事設計業者の協力が不可欠であるが、市内には関連事業者数は限られている。今回の被災の規模から、この原則に沿った3年間の事業完了は困難だと想定され、被災した市民の不安も少なくない。</p> <p>市長は、災害復旧事業に携わる職員の健康管理に十分配慮することは当然であり、さらに今後、今回と同等な被災も考慮しつつ、円滑な事業実施のための職員配置を含め組織的対応をどのように計画しているのか伺う。</p>		市長
2. 市民の声を尊重する市政運営について	<p>市長は、本年度施政方針で「総合的な施策を展開し、住民福祉の増進を図るとともに、市民の皆さんの声に耳を傾け、暮らしの安心の確保と不安の解消に努めてまいります」と述べているが、最近、市長提案に市民の組織的な反対見解が集約されている事案が見られる。市民の意見を尊重するとした施政方針のもとで、市長提案に同意できないとする市民の声に市長はどのように対応するのか、その基本的な方針を伺う。</p>		市長

順位	10	質問者	近藤 久子	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 幼児教育における環境づくりについて	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の3法令が平成29年に同時に改定された。</p> <p>幼児教育の内容や質を3つの幼児教育施設で揃え、どの施設であっても日本の大切な幼児教育施設として位置づけられ、保育所も我が国の「幼児教育施設」として初めて認められた。改定された「保育所保育指針」の以下の点について、本市の取り組み状況を伺う。</p> <p>(1) これまでの「保育指針」では、やや不十分であった乳児（0歳）と、1歳以上3歳未満児の保育のねらいや内容について記述の充実がある。施設等についての課題と、含意をくみ取った取り組みとなっているのか伺う。</p> <p>(2) 今回の改定で保育所も「幼児教育」を行うことが強調されている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」という目標像が新たに設定され、その姿に向けて、丁寧に「資質・能力」を育んでいくことが期待されているが、十分なイメージが保育士に共有されているのか伺う。</p> <p>(3) 「第3章 健康及び安全」の「食育の推進」において、更なる環境の整備等について伺う。</p>			市長

順位	10	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 幼児教育における環境づくりについて	(4)「第4章 子育て支援」において、保護者の状況に配慮した個別の支援と、不適切な養育等が疑われる家庭への支援について伺う。		市長
	(5)「第5章 職員の資質向上」において、施設長の責務も「努めること」から「努めなければならない」と表現が変わり、保育士の研修の実施体制等が新たに加わるなど、強化が示されている。どのような取り組みを実施されているのか、また今後の計画内容について伺う。		
	(6) 保育所児童保育要録の改定について、各保育所において適切に作成・送付することの周知と、一人ひとりの子どもの育ちが小学校へと適切に引き継がれるために、特に配慮を要する部分を含めた取り組みについて伺う。		

順位	11	質問者	政野 太	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 庄原市の人口 問題について	<p>(1) 本年1月、46名のメンバーによって「庄原市の人口問題をとことん考える民間会議」が設立された。その中で「まち」「ひと」「しごと」の3部会で議論を重ねられ、本年10月にはそのまとめとして、市に対して提案が行われた。合わせて、市も「庄原市の人口問題をとことん考える民間会議」に対して、官民連携を前提とした事業提案を行った。それらの経緯を踏まえ、市として今後どの様に互いの提案事項をまとめ、実施に向けた取り組みを行っていくことになるのか、市長の見解を伺う。</p>			市長
	<p>(2) 現在、国においても外国人労働者の受入に関する入管難民法改正案の審議が行われている。市提案の中でも本市における外国人技能実習生に関して、「外国人グローバル人材確保・定着促進事業」とあるが、その具体的な取り組みについて、市長の見解を伺う。</p>			
2. 県立広島大学 との連携につ いて	<p>(1) 「しょうばら産学官連携推進機構」の取り組みによる地域産業、地域経済の活性化に、市民も大きな期待をしていると認識している。市はこれまでの成果を、どの様に評価しているのか、市長の見解を伺う。</p>			市長

順位	11	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 県立広島大学との連携について	<p>(2) 県は現在、2021年開校に向け県立広島大学の再編構想を掲げている。庄原キャンパスも開校から約30年を経過し、今後は施設更新など管理運営上の課題もある中、将来にわたり庄原キャンパスを維持していくには、さらに本市との関わりが重要であると認識している。その意味からも、県立広島大学庄原キャンパスとの関係をさらに強化すべきであると考えているが、今後の展開について市長の見解を伺う。</p>		市長
3. 比婆道後帝釈国定公園の災害復旧について	<p>本市の重要な観光資源である比婆道後帝釈国定公園の神龍湖において、平成30年7月豪雨の被害によって、大量の流木が流れ込み観光業に大きな影響を及ぼしている。ボランティア活動などにより、ゴミを取り除く作業が行われているものの、大きな流木の撤去には専門的な知識を必要とするため、現在まで放置されている状況にある。</p> <p>本市としても、関係機関と協力をして対処すべきであると考えているが、どの様に現状を把握し対応を考えているのか、市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	12	質問者	五島 誠	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 中学生のまちづくりへの参画について	<p>本年10月に行われた庄原市教育フォーラムにおいて、「私たちが創る、10年後のふるさと庄原～『庄原の魅力』発信プラン」という市内7中学校の生徒による提案発表があった。</p> <p>各中学校代表の生徒がふるさと庄原市の魅力を発信するプロジェクトを発表され、本市の施策に活かしていけばというようなものも多く、発表だけで終わらせるのはもったいないと感じた。この提案をもとに中学生がまちづくりへ参画することについて、所見を伺う。</p>			市長 教育長
2. カラーユニバーサルデザイン推進の取り組みについて	<p>カラーユニバーサルデザイン推進の取り組みについて、以下のとおり伺う。</p> <p>(1) 本市の取り組みの現状、職員への周知、市民への周知、今後の展望について</p> <p>(2) 教育現場における色覚検査の状況、色覚チョークの導入など色弱児童・生徒に対する配慮について</p>			市長 教育長
3. 副業人材の活用について	<p>大手企業やベンチャー企業の副業解禁の流れが進む中で、副業マッチングなど様々なサービスが活発化しているが、本市においても関係人口を増やすことや人材確保のため、副業人材の活用について積極的に取り組んでいく時期ではないかと考える。また、企業のみならず市役所の業務についても専門性の高い分野などで、副業人材の活用を進めていくべきと考えるが、所見を伺う。</p>			市長



順位	13	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 水道事業の広域化について	(1) 県内の水道事業統合の検討が始まっているが、水道事業の統合には大いに懸念を持っている。現在までの検討状況を伺う。		市長
	(2) 民営推進の「水道法改正案」が国会で審議中だが、再公営化という世界の流れに逆行していると考え。水道法改正について、市長の見解を伺う。		
2. 高すぎる国民健康保険税を引き下げ、住民と保険制度を守るために	(1) 全国知事会の2014年7月の提言は、「国保料(税)の負担は限界に近付いている」と指摘し、「協会けんぽ」並みに引き下げのために、国に1兆円の公費の投入を求めている。1兆円投入すれば、均等割と平等割を廃止し、「協会けんぽ」並みの保険料に引き下げることができる。市長会等を通じて、抜本的な公費負担の増を求めていくべきと考えるが、市長の見解を伺う。		市長
	(2) 生活困窮者の国保料(税)を免除する制度を国に求めるとともに、国保の都道府県化によるさらなる保険料(税)の引き上げは行わない方向を追求すべきと考えるが、市長の見解を伺う。		

順位	13	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 学校再配置計画の再考を	<p>昨年の12月議会から毎議会で再配置問題を質してきた。今回の計画については、①明らかに定住対策に逆行すること、②学習指導要領は単式を想定して作られ複式は想定していないとする等、議論の出発点が間違っていること、③全て単式の学校を目指すことは多様な個性を持つ子どもたちへの画一的な対応となり、複数校ある地域では「指定学校変更や区域外通学」などの配慮ができなくなること、④最初から、対象校と統合スケジュールを決めて、住民理解を求める進め方はまちづくり基本条例にそぐわないこと等々、様々な問題点が指摘できる。将来に禍根を残さないため、今回の計画は再検討されるべきだと思うが、教育長の考えを伺う。</p>		教育長
4. 帝釈峡の環境整備について	<p>(1) 帝釈市場から神龍湖につながる帝釈峡遊歩道の復旧の方向性、今後の見通しについて伺う。</p>		市長
	<p>(2) 庄原市と神石高原町の共同歩調で中国電力に働きかけ、神龍湖に流れ込んだ流木、ゴミ、アオコなどの本格的な除去に取り組むべきと考えるが、現在の取り組み状況と市長の考えを伺う。</p>		

